

▼しめ縄作り(口高黒島神社 令和2年12月)



▼神前の準備(下祇園町秋葉様 令和2年10月)



▼ご神事(森部天満神社 令和2年12月)



▼戸渡し(森山阿蘇神社 令和3年9月)



▼川祭りのフラット(石王地区 令和3年4月)



田主丸では驚くほど多くの神事や伝統行事が、地域の人々によって続けられています。例えば、神事の場合、一般的には参列するだけのイメージが強いですが、田主丸では地域の人々が神事の手を直し、そこに宮司が来て神事を行います。

神事の日には幟旗が立ちます。昔ながらに幟旗の柱を氏子達が人力で立てる神社もあります。しめ縄は手作りで、自ら栽培した稲を使用しています。夏は、川から取ってきた茅で大きな茅の輪を作ります。そこには伝統の技が引き継がれています。作業場は人々の談笑でにぎわい、地域の温もりが伝わってきます。

氏子達は神前の用意もします。神棚に鯛や野菜を並べ、境内に植えられた榊の木から玉串に使う枝を切ります。時には玉串に飾る紙垂まで用意します。そして、神事で宮司と共に氏子も玉串を供えます。

地域をつなぐSDGs 神事のお世話

神事の後には、神様の前で皆で飲食する「直会」や、御神酒を飲み交わして世話当番を交代する「戸渡し」が行われ、地域の人々は親交を深めます。

神事には、春は豊作祈願、夏は病気や風雨の厄除け、秋は豊作感謝と、農業に関する祈願が多くあります。田主丸地域で今も農業が盛んなことが、田主丸に神事が多く残る一因と思われます。

このように、地元の自然・産業・地域社会に支えられて、初めて神事や伝統行事は成立します。まさに日本が育んできた伝統的なSDGsです。しかし、近年は田主丸でも担い手不足に悩まされています。例えば、しめ縄が作れる人が減り、ビニール製の既製品に代える地域が増えています。

令和5年3月、田主丸の祭りは久留米市『筑後川遺産』の第2号に登録されました。田主丸の伝統文化が人から人へ、世代から世代へと持続可能になるよう、筑後川遺産を活かした活動を地域と行政が協力して展開していきます。

▼直会(三明寺徳間天満宮 令和2年12月)



▲神社幕の準備(田主丸天満宮 令和5年8月)



▲茅の輪作り(中原天満宮 令和2年9月)



▲旗立て(下祇園町素盞鳴神社 令和3年4月)



▲神社で異なる旗の文(怒田天満宮 令和3年9月)

